

## 世界最初の表音文字

世界最初の表音文字は、今から凡そ五千年前、アッカド人がスメール文字を仮借した時にその起原を発してゐます。

スメール文字の“𐎗”は、二本の角をもつ牛の頭部<sup>かたど</sup>を象った象形文字で、牛(スメール語でアレフと言ひました)といふ意味の表語文字です。これをアッカド人はアレフの頭韻の“ア”を表す文字として仮借しました。

“𐎗”は、家の象形文字で、家(スメール語でブエートと言ひました)といふ意味の表語文字です。これもその頭韻の“ブ”を表す文字として仮借しました。このやうにして、アッカド人はその言語を構成してゐる総ての音韻を表すのに必要なだけスメール文字を仮借し、これらを総称して“アレフ・ブエート”と呼びました。

今の“アルファベット”といふ言葉は、この“アレフ・ブエート”の変化したものです。また、“𐎗”は“A”に、“𐎗”は“B”に変化しました。

しかし、文字の使命は、アルファベットといへども<sup>ただ</sup>唯音声を伝達すれば済む、といふものではありません。その音声に盛られた意味を伝達することが、本当の目的なのであります。

ですから、表音文字で表記されたものは、いくつかの文字の音声を

まとめて一つの言葉とする事が出来て初めて意味が表現でき、それから意味が汲取れるのです。所がそれがなかなか容易な事ではありません。また、出来たとしても<sup>かつかい、そうよう</sup>隔靴搔痒の感を拭ひ得ません。